

『平成30年度寝屋川市総合医療防災訓練』を実施しました！

日時：2018年9月2日（日） 10:00～13:00

場所：寝屋川市保健福祉センター（総合センター） 5階

参加者：寝屋川市役所、大阪府寝屋川保健所、寝屋川市医師会、寝屋川市薬剤師会、寝屋川市歯科医師会、
寝屋川市社会福祉協議会、大阪府枚方土木事務所、寝屋川市病院協会（計79名）

ファシリテーター：建築学科学生10名+大学院生2名+教員2名（計14名）

今回の見どころ

寝屋川市総合医療防災訓練とは、寝屋川市内の大地震発生時に寝屋川市や大阪府寝屋川保健所等の多機関が寝屋川市民の被災生活を支えられるようにすることを目的としています。このような訓練を多機関が一堂に会して実施し、互いの動きや考え方をすることで、実地震時に情報共有をすることが出来るようになります。この訓練は昨年度から実施されており、地震後の避難所生活が困難となりそうな要支援者や障がい者、体調に問題のある人などの福祉面の対策を考えます。3時間の訓練の中で、被災者の医療や福祉の問題を一度に扱うことで、実地震時の状況を現実感をもって考える機会となるのが今回の見どころです。

プログラム実施風景



大阪府寝屋川保健所長によるあいさつから始まりました。全員が真剣に取り組む姿勢を感じました。



参加者は掲示した被害状況を付箋に書き出し、寝屋川市の地図上に貼りつけました。



病院協会の参加者は地震時に自病院で起こり得る問題について話し合い、対策をたてました。



参加者は必死に取り組みつつ、時折笑い声もあり、良い雰囲気の中話し合いが進みました。



歯科医師会では今後すべきことについて「全員の連絡網を構築する」などが挙がりました。



班ごとの結果発表の様子です。自分たちと違う考え方があることを互いに認識しました。

プログラム実施結果

演習中には1つの問題に全員が対応し的確な判断を下している班、複数の問題に役割分担する班などがありました。今回は訓練なので与えられた時間内で取り組むのですが、役割分担している班は時間が余ることが多く、全員で対応している班は時間内に終わらないこともありました。実地震時では対応時間の区切りがなく、演習より多くの問題が生じるため、素早い判断が必要です。したがって役割分担をしながら複数の問題を同時に解決する方がスムーズに対応できると考えます。こうした訓練が続けられることで、地震による被害が少ない寝屋川市でも、多機関が実地震時に医療や福祉の問題に対応しやすくなるのではないかと思います。そして私たちも防災訓練に参加し、避難所での生活を想像したり、身の回りの安全に目を向けるなど、地震に備えることが大切だと改めて思いました。